



多読で英語力アップを はかろう その7



今回は多聴についてお話しします。多読では自分で理解できるレベルよりかなり易しい本を大量に読み、少しずつレベルを上げていくことがポイントでしたが、多聴も基本的には同じです。自分の現在の力よりも、うんと易しい本の音声を取らん聴き、徐々にレベルを上げていきましょう。ちなみに、臨界期と呼ばれる時期を過ぎた大学生は、単に「聞き流す」という方法では残念ながら英語を身につけることはできません。やはりコツコツ取り組むのみです！さて、多聴でもまずお勧めしたいのは、Oxford Reading Tree (ORT) です。できれば、いきなり多聴を始めるのではなく、100冊程度多読を終え、訳さずに英語の本を読むことに慣れて

から多聴を始めることを推奨します。YL0.2-0.3程度なら1~2時間もあれば100冊くらいすぐ読み終わられるということは、前の図書館報(No.95)でもふれました。まず、はじめは「聞き読み」にチャレンジしましょう。聞き読みとは英語音声を聞きながら本を読むことで、英語の音にふれ、英語独特の発音やリズムに慣れることができます。一度読んだ本であれば理解しやすいはずですが、音源はCDも図書館に用意されていますが、ORT音声ペンを使うと1ページごとに英語音声を聞くことができ便利です。ORT音声ペンは図書館カウンターで借りることができますので、是非一度試してみてください。

経済学部教員 吉田 弘子

多読多聴のサポート 「Oxford Reading Tree」 音声ペンの登場

リスニングが便利になりました！

本のシールをタッチするだけで英語の音声を聴くことができます！



【方法】

1. 図書館カウンターで「音声ペンセット」を借りる。
2. 音声シール付きOxford Reading Tree (ORT) を選ぶ。
※現在はStage1+~Stage5のみ対応
3. 本の音声シールをタッチすると英語が聞こえます。(図書館内ではイヤフォンを使用してください)



ココを音声ペンでタッチ！

としまがん

101

2020.4.1

大阪経済大学図書館報

▶ 特集

先生おすすめの 一冊



図書館学生サポーター 大募集！

図書館報の歴史

第17回ビブリオバトル

多読で英語力アップを はかろう その7

編集後記



今回で最後の図書館報となりました。最後に初めてインタビューを経験。どちらかといえば雑談のような形になりましたが楽しかった！4年間で様々な経験ができました。ありがとうございます。学生サポーター、楽しいので興味ある方はぜひ参加を。 m.i

三年生後期から図書館サポーターに参加して、早いもので一年が経ちました。編集に携わるのは今回で最後となりますが、この図書館報はぜひ、200回、300回と続いてほしい活動だと思っています。また図書館報を通じて一人でも多くの人に、素敵な本との出会いがあることを願っています。

木村 佑輝

編集後記

あっという間に卒業の時を迎えました。学生サポーター活動を通して、様々な経験をすることができました。特に、運営に携わったイベントが成功を収めた時には、本当に感動しました。社会人になってからも、学生サポーター活動で学んだことを生かして頑張っていきます！

山崎 徹

今回は先生のおすすめの本と図書館サポーターの紹介文執筆、2度目のビブリオバトル全国大会に出場する木村佑輝さんのインタビューなどをしました。図書館サポーターとして、この1年間に、ビブリオバトルの運営や、司会などに挑戦しました。これからも図書館サポーターの活動をアピールしていきます。

笹倉 優太

図書館サポーターを始めてもうすぐ1年が経ちます。まだ慣れないことが多いですが、ビブリオバトル運営などのイベントに参加して頑張っていきたいと思います！

AK



先生おすすめの 一冊

Teachers' recommendation

一日一生 酒井雄哉 著

経済学部 吉田 弘子先生のおすすめ!

郵便不正事件で不当逮捕された元厚労省事務次官の村木厚子さんが164日に及ぶ勾留中に読み、心の支えとした本である。(ちなみに村木氏の『私は負けない「郵便不正事件」はこうして作られた』(請求番号:326.21/Mur、資料ID:50073648)も是非お勧めしたい。) 作者は比叡山の高僧、何しろ行を途中でやめたものは自害せよ、という厳しい掟で知られる比叡山千日回峰を2度も満行(達成)された方である。しかし、出家されるまでの人生はまさに波乱万丈だった。子供の時は食べるものすらない貧困に苦しみ、太平洋戦争では特攻隊で出撃前に終戦となった。戦後は職を転々とし、30歳を過ぎて結婚したものの

請求番号:188.44/Sak/1
資料ID:50096323



新妻はわずか2か月で自殺してしまったという過酷な人生を経て得度された。そのような作者が、常人であればいつ命が果てもおかしくない千日回峰の厳しい修行の中で会得されたのは、一日一日のことだけを考える、今歩いている一歩だけを考える、ということだった。本書の中で作者は「生きていれば何とかなる、先のこととはわからなくても、今この時を歩き続ければ何とかなる」とやさしい言葉で語っている。読んだ後はきっと肩の力がふわっと抜け、「そうか、すべてを抱え込まなくてもいいのか」と気持ちが軽く感じられるだろう。悩み多き学生時代を送っている人もそうでない人にも、ぜひ読んでほしい1冊である。

山崎 徹さんのコメント

人生で何も大きな功績を残さずに、平凡な自分のままでいいのとか考え込むことが、これまでに何度もありました。しかし、この本の中の「ありのままの自分としかつ向き合い続ける」、「人からすごいと思われなくたっていいんだよ」という2つの言葉に感銘を受け、平凡に生きていても構わないこと、自分らしさを大切に生きていくのが良いということに気づきました。僕も自分らしさを失わないように生きていこうという、前向きな希望を持つことができました。

多数決を疑う: 社会的選択理論とは何か

坂井豊貴 著

請求番号:S2641/311.7
資料ID:50079341

経済学部 橋本 和彦先生のおすすめ!

みんなで何かを決めるとき、
どうして多数決を使うのだろうか?
多数決って優れた決め方なのだろうか?
どんなときでも多数決を使えばいいのだろうか?
他にもっといい方法はないのだろうか?
そんなことに興味を持ったなら、一度この本を読んでみてはいかがでしょうか。

AKさんのコメント

普段よく使われる多数決で、3つ以上の選択肢があり、その内の2つは内容が似通っている場合、投票は票割れが起こり、結果が正しく反映されません。そんな問題点を抱える多数決が、どんな条件下で機能するのか、また多数決以外にはどんな代替案があるのかがこの本に書かれていてとても勉強になります。選挙での使われ方や正しい判断について、昔の学者の考え方も書かれているので、興味を持った方は是非読んでみてください。



今回のテーマは「先生 おすすめの一冊」です。図書館学生サポーターが、先生のもとへ伺い、学生に読んで欲しい本を推薦していただきました。推薦を依頼した学生が読んだコメントとともに紹介します。たくさんの中から選んでくださった、選りすぐりの一冊です。ぜひ読んでみてください。

ランチタイムの経済学 スティーヴン・ランズバーグ 著

経済学部 水野 伸宏先生のおすすめ!

請求番号:331/cL26
資料ID:50001648



おすすめ本は何ですか?

『ランチタイムの経済学』という本です。内容としてはランチタイムに話すほど身近な疑問を、経済学を応用して解決していくという内容です。例えば「シートベルトをすることで事故は本当に減るのか?」「なぜ映画館のポップコーンはあれほど高いのか?」など、実際の事例を出してわかりやすく解説された一冊です。

教授はこの本をいつ頃読まれましたか?

確か大学4年の時に読みました。今の大学生にも読みやすい本だと思います。

読む際のポイントなどはありますか?

すべて読むよりも、まずは目次を見て気になるトピックがあれば読み進める読み方をお勧めします。

どのような学生に読んでもらいたいですか?

経済学を学んでいる学生です。自分が勉強していることがどのように役に立つのかわかりますし、経済学の副読本にピッタリです。

木村 佑輝さんのコメント

全24章で構成されており、1つ1つがそれほど長くないので、ちょっとした空き時間に読むには丁度いい本だと感じました。また、本書を1年生の時に読んでおけば、より経済学に興味を持ってたかも知れないので、もっと早く出会えたかった一冊です。

良い戦略、悪い戦略

リチャード・P・ルメルト 著

請求番号:336.1/Rum
資料ID:50072055

経営学部 三島 重顕先生のおすすめ!

本書は、多くの企業や戦争の事例を挙げ「戦略」の神髄に迫る。興味深いのは失敗事例も載せ、その理由に迫る点にある。第1部では「悪い戦略」の特徴、それが生じる原因を経営者の心理的な側面から論じた後、「良い戦略」の基本構造である「診断」、「基本方針」、「行動」について説明している。第2部では「良い戦略」に焦点が当てられ、9つの強みの源泉を各章で詳細に論じている。特に、第10章の「フォーカス」に関するアメリカの缶製造メーカークラウン・コルク&シール社の事例には、読み終わった時に驚嘆させられる。

笹倉 優太さんのコメント

経営戦略の良い例と悪い例が具体的に書かれています。今まで読んだ経営の本の中で、一番難しかったですが、戦略を学ぶには最も良い本だと思います。特に悪い戦略に対して、ただ目標や計画を立てるのではなくそれをどうやって成功させるか、具体的な方法が大事であるという点に、納得しました。戦略に興味がある方に、お勧めしたい本です。



先生おすすめの 一冊 Teachers' recommendation

知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスイッチ

荻谷剛彦 著

請求番号:X2089/141.5
資料ID:50095951

情報社会学部 林 怡蓉先生のおすすめ!

現代社会では様々な「事実」や「言い分」が多様なメディアを媒介に飛び交っている。この多事実・多声ともいえる情報状況のなかで、私たちはしばしば自分にとって心地よく安心できるあたりまえな「常識」に囲まれた環境に身を置きたくなるものである。しかし、それでは周りに流されてしまい、他者の一存に身を任せることにつながる。本書は、「常識」にとらわれず、「複眼的」に自ら学び、思考し続ける手法について、分かりやすい例題とともに学習できる。この時代だからこそこの必読本といえよう。

m.iさんのコメント

情報を鵜呑みにするのではなく、疑問を持つこと、自分の頭で考えること。社会ではこの力が必要だ。ステレオタイプのな発想に出合ったとき、「ああそうか」で終わってはいないだろうか。この本は具体例を挙げ、ステップをふむことによって、複眼思考を実践できるようになっている。考えることを習慣にする第一歩になるだろう。



図書館報の歴史

History of Toshokanpou



図書館報「としょかん」は、今号で101号となりました。これまでの100号を、図書館学生サポーターが振り返り、紹介します。49年前の経大生に、タイムスリップ!

1971年(創刊号)～1982年(23号)

図書館報の第一回目が発行されたのは1971年4月6日。このころの図書館報は、現在に比べると少し堅い内容を含み、選書のテーマも「経済学を学ぶ人のための一冊」や「英語の辞書を選ぶにあたって」など、学習用の本が紹介されることが多かった。(木村 佑輝)



図書館学生サポーター大募集!!

図書館では、図書館報「としょかん」の企画・編集、ビブリオバトルの運営などをお手伝いしてくれる学生ボランティアを募集しています。あなたの声を反映させて、図書館の魅力をアップさせてください!

募集要項

仕事内容

図書館報の企画・編集(原稿作成、デザイン、取材等) ビブリオバトルの運営(司会・受付・撮影・広報等) 他

参加条件

図書館に興味がある人。図書館報の企画・編集・デザイン・原稿執筆・写真撮影、イベント運営、ポスター作成など、自分の得意な分野で活躍してください。

図書館1階カウンターに気軽に声をかけてください。

随時受け付けています。



図書館学生サポーターのコメント

図書館の学生サポーター活動は、図書館報の原稿作成とイベント運営の2つが主軸です。原稿作成では、自分のお勧めする本を自分の言葉で紹介することができます。イベント運営では、イベント当日客席の前に立つ司会や司会補佐のほかに、音響や写真撮影といった裏方の役割もあり、自分の力を発揮できるフィールドで活躍できます。部活やサークルとは少し違った活動してみたいという人にはもってこいだと思います。 山崎 徹さん

僕は、図書館サポーターとして日々の学生生活を過ごしています。図書館サポーターは、図書館のイベントや図書館報の企画・運営・作成をメインに活動しており、ビブリオバトルという大きなイベントにも携わったりして、様々な経験や知識、交流を得ることができます。ぜひ図書館サポーターになって、学生生活をより良いものにしましょう。随時募集していますので、気になった方は図書館の職員にお尋ねください。 笹倉 優太さん

1982年(24号)～2000年(65号)

1982年から2000年の図書館報では、「隣は何をするゼミぞ」(1986～1996年に連載)が面白い。まるまる1ページを使い、ゼミでの活動を紹介している。先生だけでなくゼミ生の体験談も載っていて、とても興味深かった。他のゼミがどんなことをしているか知ることができたり、入りたいゼミを見つたり、ゼミに力を入れている大経らしいテーマだ。(m.i)



2001年(66号)～現在

2001年から2009年までは本学の先生へのインタビューや本の紹介、図書館からのお知らせが中心でした。2010年に冊子の体裁がガラッと変わり、現在のA5判になりました。本の紹介は引き継がれていますが、2010年からは図書館からのお知らせの情報量が増加し、学生にもっと図書館を利用してもらうための工夫が新たに施された感じです。(山崎 徹)



第17回

ビブリオバトル

第17回ビブリオバトルは、2019年11月8日(金)4限
D館2F HUBCAFEで開催されました。

NEW
CHAMPION!



第17回(関西Aブロック地区予選)
ビブリオバトルチャンプ
経済学部 1回生
内藤 那智さん



発表本
『とりかへばや物語』
鈴木 裕子編

ビブリオバトルとは?

- 1 発表者(パトラー)が他の人に勧めたい本を持って集まる。
- 2 順番に1人5分間で本を紹介する。
- 3 2〜3分間のディスカッションタイム。
- 4 最後に「どの本が一番読みたくなったか」を観客が投票で決める。

関西Eブロック地区決戦

10月27日(日)大阪工業大学にて行われた、全国大学ビブリオバトル2019 関西Eブロック地区決戦に第16回ビブリオバトル(6月開催)チャンプの工学4回生・西橋直輝さんが出場しました。まず2つにわかれて準決勝戦を行った後、それぞれの上位2名、計4名で決勝戦を行ってチャンプが決められました。西橋さんは準決勝戦で大工大生3名との一騎打ちとなりましたが、上位2名に入り、決勝戦に出場しました。しかし決勝戦では惜しくも2位となり、チャンプを逃して敗退となりました。

西橋さんコメント

今回関西Eブロック地区決戦に出場しました。本学のビブリオバトル同様レベルの高いバトルになり、残念ながら全国大会に出場することはできませんでしたが、とても貴重な経験ができました。これまでビブリオバトルはとても難しいものだと思っていましたが、実際に参加してみるととても楽しかったです。去年からビブリオバトル出場者が年々増加しているの聞いていますが、大工大のビブリオバトルがさらに盛り上がることを期待しています。

内藤さんコメント

ビブリオバトルに参加し、地区決勝に進出できたこととても嬉しく思います。学内外の選手のプレゼンを見ることで、本の魅力に改めて気付くことができた素晴らしい機会だったと思います。悔しくも敗退になってしまいましたが自身のプレゼンスキルを磨く良い機会になったと感じています。もっと多くの人に参加してもらえたら、というのが私からの思いです。出場だけでなく、観覧という参加方法もあります。まずは、とりかへばやというところから始めてほしい。大学生活の一つの思い出に、また、プレゼンスキルの向上に。来年度の試合でお会いしましょう。

関西Aブロック地区決戦

11月16日(土)甲南大学にて行われた、全国大学ビブリオバトル 関西Aブロック地区決戦に第17回のチャンプ、内藤那智さんが出場しました。またこの地区決戦には、学外で開催された地区予選でチャンプとなった工学4回生・木村佑輝さんも出場しました。こちらでは初めに8名が2つにわかれて準決勝戦を行い、それぞれの勝者が2名で決勝戦を行って、チャンプが決められました。内藤さんは、他の出場者に負けないパフォーマンスを見せてくれましたが、準決勝で惜しくも敗退となりました。木村さんは内藤さんとは別の準決勝戦で勝ち、更に決勝戦でも、内藤さんを負かした強敵を倒してチャンプとなり、2年連続で全国大会出場の切符を手に入れました。



Interview

ビブリオバトルに対する 木村さんの思いを聞いてみました。

2度の全国大学ビブリオバトル出場を決めた
木村佑輝さんに、学生サポーター3名がインタビュー!

インタビュー日:2019年12月10日(火)



Q. 最初にビブリオバトルに参加しようと思ったのはなぜですか?

A. 自分の後輩にあたる(ビブリオバトル第14回チャンプの)大倉君から「先輩、プレゼン本も両方好きですし、合う大会なんじゃないですか」って勧められたのが大きなきっかけ。初めて参加したのが3年の秋学期やったんやけど、ちょうどZEMI-1の後で、ZEMI-1ではちょっと自信があったにも関わらず、結果としては全然良くなって。その悔しさじゃないけど、リベンジみたいな感じでビブリオに熱をぶつけたところはあったかな。

Q. ビブリオバトルの練習でこだわったこと、意識したことはありますか?

A. いつも発表する時に意識していたのは、「とにかく分かりやすく」。初めて聞く中学生でも理解できるぐらいの言葉選びであったり、内容であったりっていうのを意識してやっていたかな。

Q. ビブリオバトルに出て、自分自身で「変わったな」ところはありますか?

A. 自信も少しはついたけど、一番大きいことと言うと、ビブリオバトル関連で知り合いが増えたな。図書館サポーターや、他校のビブリオバトルサークルやビブリオバトルの活動をしている人と交流する機会が増えたっていうのは大きいかな。ビブリオをやり始めてから、面白いって思った本に出合った時は「人に話すとしたらどう話すやろ」みたいなことは、読み終わった後、読みながらでも、考えたりする。

Q. ビブリオバトル、大好きなんです!そのモチベーションはどこから?

A. 上手い発表をしている人を見たら、「この人より上手く発表したい」って、負けず嫌いやから、自分の発表の前の人が上手い人だとすぐ熱が上がる。中毒じゃないけど、一回出たら「また出たい」っていう人は多いかもしれない。これはやった人にしか分からない、快感じゃないけど、達成感みたいなのはある。

Q. 全国大会に向けて、何か対策はあるのですか?

A. 関西ブロック(地区決戦)を色々見に行っただけ。今回は関西から東京に行けるから(前年は大阪府茨木市で開催)、熱が上がってたな。去年は最終の決勝まで上がることが出来たんやけど、そこで勝てなかったっていう思いがあるから、そのリベンジもかねて頑張りたいな。

全国大学ビブリオバトル2019 ~首都決戦~

2019年12月22日(日)よみうり大手町ホールにて「全国大学ビブリオバトル2019」が開催され、全国各地の地区決戦を勝ち抜いた大学生36名が、本を巡って戦いました。まず6グループに分かれて準決勝が行われ、4回生・木村佑輝さんが出場しましたが、今回は惜しくも準決勝でチャンプを逃し、昨年のように決勝進出とはなりませんでしたが、しかし全国から集まった精鋭たちを相手に、見事な戦いぶりでした!

木村さんコメント

今回のビブリオバトルでは、今までで一番自分らしい発表をすることが出来たので、満足の一言です。また、大会を通じて沢山の方と交流することができたので、この大会に参加して本当に良かったと心から思っています。

西橋さん、内藤さん、木村さん、お疲れ様でした!
ビブリオバトルに少しでも興味がわいた人は、ぜひ一度チャレンジしてみてください。